

事案名	仙台市の事案（宮城県4-3）
分類	発見・被災・掃海等処理情報 その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔1〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔2〕 ・証言〔3〕 ・『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）」平成15年10月〔4〕
資料内容概要	<p>宮城県仙台市内には、昭和37年に新浜海岸でイペリット容器10本が発見され、埋没処理されている。また、昭和38年には教育施設の敷地内でイペリットボンベが発見され、海中投棄されている。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和37年11月8日から9日に、新浜海岸で発見された旧軍イペリット容器（100リットル缶）10本を宮城県警本部長の要請を受けて出動した自衛隊が除染した後、埋没処理した〔1〕〔2〕。 ・昭和38年に仙台市内の教育施設で旧軍のイペリットボンベが発見され、自衛隊が海上保安庁を支援した。海上保安庁はこれを海中投棄した〔2〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市川内の歩兵第四連隊に所属していた元軍人からの証言として、「昭和17年に、何人か集められ一度だけガスマスクを装着し、毒ガス弾（イペリット）の取り扱いの訓練を行ったことがある。当時はガス班が別にあった」と記載されている〔3〕。なお、歩兵第四連隊跡は現在、公園と市の建物と道路の一部になっており、民家、井戸はない。土地の所有者、管理者について建物は国、公園と道路は市である〔4〕。